

九条北小学校 校長室だより

N0.21 令和6年8月6日



原爆が投下されてから79年目の今日、広島平和祈念公園で「平和祈念式典」が行われました。ぜひ平和について考える機会としたいです。式典内で読まれた広島の小学校の6年生による「平和への誓い」を掲載しました。



★ 夏休み～ラジオ体操や子ども神輿に大活躍！！★

夏休みが始まりました。7月19日（金）～27日（土）には、九条北小学校運動場で「ラジオ体操」が行われました。早朝から、たくさんの児童たちが集まり、体を動かしていました。7月23日（火）には、子ども神輿が元気よく練り歩いていました。熱い中でしたが、参加した児童たちの元気なかけ声が響いていました。7月27日（土）～29日（月）には、5年生が林間学習で鉢伏高原へ行ってきました。天候にも恵まれ、高原ならではの活動を楽しみました。



★ 8月6日「ヒロシマ平和祈念式典」～子ども代表「平和への誓い」！！★

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。



昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。



今もなお、世界では戦争が続いている。79年前と同じように、生きたくても生きることができなかつた人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失つた人たちが、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。願いだけでは、平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくることは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合いましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年（2024年）8月6日

こども代表 広島市立祇園小学校 6年 加藤 晶
広島市立八幡東小学校 6年 石丸 優斗

